

創世記 21 章 9-21 節 「子どもの泣き声を聞かれる神」

89歳の時に来年子供を産むと聞いてサラから出てきた失笑は、一年後、神様への感謝と喜びの笑いに変わられました。この「イサク」という名は、「笑い」という意味を表しています。サラは授かったイサクを前にして、主にある笑いという意味、自分に笑いかけて下さっている神さまを知ることができたのです。

しかし女の戦いが始まりました。16年前、子どもが与えられないのを知ったサラは、アブラハムと自分の奴隷の間に子供を産ませ、それを自分の子どもにしようとしました。その時にサラがアブラハムに与えたのが、ハガルというエジプト人の奴隷で、生まれてきたのがイシュマエルです。ハガルが妊娠した時から、サラはハガルに嫉妬し始めました。ジメジメした女の戦いが繰り広げられるようになってしまったのも、アブラハムの無関心さと優柔不断さが原因だと言う事もできました。そして大きな出来事が起こります。イサクの乳離れの日に、盛大な宴会を催し、そのときイシュマエルがイサクをからかっているのをサラが見て、焦ったのです。このことで、アブラハムは非常に悩んだとあります。しかし神さまからの言葉通りにしました。

ハガルは立ち去り、ベエル・シェバの荒れ野、砂漠をさまようのですが、革袋の水は無くなってしまいます。砂漠の中で、水がなくなるということは、死を意味します。彼らは頼るべきものを失って、絶望しておりました。しかし、彼らが絶望していたということとは、彼らが神に祈ったということの意味していたのではないのでしょうか？そのハガルとイシュマエルの祈りに答えて、天から神の御使いがこう言うのです。ここで、神の御使いは、「神はあそこにいる子供の泣き声を聞かれた」と言われました。イシュマエルという名前は、「主は聞いてくださる」という意味であります。主はイシュマエルの泣き声、祈りを聞いてくださるのです。イシュマエルは、契約の祝福を継ぐ者ではありませんが、大きな国民として、アラブ人となっていくのです。

「イエス・キリストを信じる者は、誰でも救われる」というのが神さまの約束です。私達がその約束を受け入れ、信じる時、私達を縛り付けるものはなにもありません。私達はしなければならないのではなく、喜びをもって全ての事をしなさい、と神さまからその命を与えられているものです。私たちの社会の中で不要とののしられ、無価値だと追いやられている人もいます。そのような排除や対立ではなく、別の道へと導かれ、命が約束されていることを覚え、平和の希望を抱きながら歩んでいきたいと思えます。私達は愛されているから、神を賛美し、礼拝し、御言葉を学び、人を愛し、人を思いやり、与えられているから人に与え、人に仕えることができる人間へと成長していこうではありませんか。それこそが、私たち約束の子供たちの喜びであるはずだからです。